

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ③国内外の大学との単位互換協定やダブル・ディグリー等による教育課程の充実

##### ●立命館アジア太平洋大学経営管理研究科経営管理専攻

##### 「立命館アジア太平洋大学 MBA プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

国内外ビジネス・スクールとの大学院レベルでの交流・連携の検討・協議を進めてきたが、学生交換やジョイント・プログラムの実現には至らなかった。

(苦労したこと、困難であったことの詳細な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

本学は、大学全体としては世界 60 カ国・地域、402 大学・機関と協定を締結しており、その内 110 の大学・機関と学生交換協定を締結（ビジネススクールや経済経営系の大学との協定 14 カ国・18 大学（内 15 大学と学生交換協定））する実績を有する。本支援期間において、研究科の教員を海外で開催されるビジネススクールの会議等に派遣し、教員同士のネットワーク形成するよう促し、学生交換等の国際交流に関する協議の場を積極的に設けた。しかしながら、海外のビジネススクールとの協議において、①（相手先大学院が）学生交換に消極的、②国際交流は他の部門担当、③学部生（特に短期派遣・受入）が中心といった点から具体的な連携に至らなかったものである。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

学生交換やジョイント・プログラムのパートナーとなる大学院の選定を丁寧に行い、連携の可能性が高い大学院に注力し、具体的な提案を行う必要があったと考えている。

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

#### ①国内外におけるインターンシップ・フィールドワークの充実

##### ●立命館アジア太平洋大学経営管理研究科経営管理専攻

##### 「立命館アジア太平洋大学 MBA プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

フィールド・スタディの強化、インターンシップの実施・展開を十分に行うことができなかった。

(苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

選択科目として、フィールドスタディ(2単位)を設置し、事前・事後研修、アドバイス、成績評価を行う専任教員2名を配置した。

学生の自主性・自律性を重視し、フィールドスタディ先へのアプローチは基本的に学生自身が行い、教員は適切なアドバイジングを行うものとしてきた。しかしながら、留学生が大半を占める本学大学院においては、学生が希望したとしても日本語運用能力等の問題から日本企業での受入れが困難であること、海外であっても学生自身がフィールドスタディ先を開拓することが困難であること、原則としてこのフィールド・スタディにかかる経費は学生負担となること等から、履修者数の少なさに繋がってしまった。

(2007年秋～2009年秋まで単位取得6名／登録11名)

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

本プログラム支援期間においても実施してきたものではあるが、より組織的に、研究科教員主体によるフィールドスタディ先開拓を行うこと、当該科目の位置づけの見直し(選択科目でよいのか)と学生への強い指導、学生への費用補助等を検討する必要があると考える。